

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKAWA
Express

DIESELAID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
QUARTZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Quattrofire
タイヤ・メンテナンス

RACING PROJECT
BANDOH

『ADVAN と共に戦う姿を見せ 5 位入賞』



シリーズ名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT ROUND7 FAVHOTEL AUTOPOLIS GT
300KM RACE

SUPER GT Round.7 AUTOPOLIS 決勝結果【5 位】

レース距離 : 1 周 4.674km×65 周 (303.81km)

10 月 1 日 (土) 天候 : 晴れ / 路面 : ドライ

10 月 2 日 (日) 天候 : 晴れ / 路面 : ドライ

10 月 1 日 (土) 予選 Q1 : 阪口選手 5 位 / Q2 : 国本選手 3 位 /

公式予選 : GT500 クラス 3 位 (1:32.055)

秋晴れのオートポリスで開催される第 7 戦オートポリス。雨の心配は全く無く、この時期にしては少し気温が高くなっているが、予選開始時の気温 25 度、路面温度が 40 度となっている。ウェイトがポイント x 2 からポイント x 1 となり、半分となった各車がどのような予選を繰り広げるか、19 号車の 5 度目の予選ポールポジションは成すことができるのか。

午前中の公式練習は混走時間で一時 3 番手のタイムを出し、タイヤと車のバランスを見ながらロング

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKANO
Express

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KEC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
QUARTZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

QuakerTire
タイヤ・メンテナンス

RACING PROJECT
BANDOH

ランを行った。その後の GT500 占有時間では
1:34.388 と 5 番手のタイムで終わることが出来た。

予選

Q1 は阪口選手がアタック。

いつもの静かな Q1 は残り 7 分で 12 号車が、
残り 6 分半で多くの車がピットアウトする中、
19 号車は 5 分半にて最後の 3 台のうちの
1 台としてコースインをする。2 周のウォーミング
ラップ後にアタックに入ると、チェッカーが振られた後に
ゴールラインを切った 19 号車が出したタイムは
1:32.393 と暫定 5 位。

その後、各車がタイム更新をするが、上位 5 台の
順位は変わること無く、19 号車は 5 位にて Q1 を
突破する事となった。

Q1 の結果は 36-100-24-64-19-14-8-17-
(以下 Q1 敗退) -23-12-16-39-3-38-37 と
なりました。

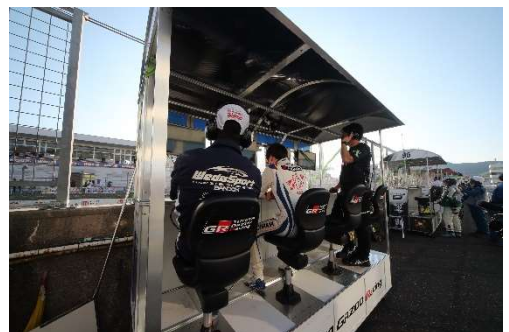
Q2 は国本選手がアタックドライバー。

Q2 も静かな始まりとなり、各車遅くコースに
出てくる中、残り 5 分を切ったあたりで 19 号車は
コースに出てきた。

2 周後、残り 30 秒でアタックに入った国本選手は、
19 号車を 1:32.055 と暫定トップにコンマ 2 秒
及ばず暫定 2 位のタイムを出す。

その後、最終ラップに同じヨコハマタイヤユーザーの
24 号車がセクター 3 でタイムを削りポールを取り、
19 号車は Q2 を 3 番手で終えることとなった。
Q2 の結果は 24-100-19-17-14-8-64-36 と
なりました。

決勝は 2 列目からのスタートとなりました。





予選コメント

【坂東監督】



『24号車が予選1番でした。ちょっと悔しいですね。7戦中5回横浜ゴムがポールですからタイヤの進化は本当に素晴らしいと思います。また今までの SUPER GT で年間5回も横浜ゴムユーザーのポール獲った年はなかったんじゃないですかね？』

予選は3番ですが TGR チームで TOP ですし予選順位より決勝順位が大事ですから2台抜いて TOP で九州のお客様の前で良いレースを見せたいです。』

【国本選手】



『Q1の結果から車とタイヤのパフォーマンスが良い事はわかってました。ポールを狙っていたので3番手は残念な結果でしたがフリー走行で NEW タイヤを履く機会がなかった分上手くまとめた予選だったと思っています。今年はポールスタートから順位を落とすレースが続いていたので予選3番手から逆の立場で追いつけたいと思います。』

【阪口選手】



『Q1 担当しました。フリーからコンディションが変わって結構手探りな予選でした。車とタイヤのパフォーマンスが高くてセクター1.2は良かったのですがセクター3は失敗してしまい良いアタックではなかったのですが Q2 に繋ぐ事が出来ました。3番手スタートですが決勝を見据えたタイヤです。予選順位より上でゴールしたいと思います。』

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

RUTE

Jms

OKANO
Express

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellNets
— Animal Welfare Group —

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GEOMETRY & ENGINEERING

本田鉄工株式会社

JOYTIME
タイヤカーショップ

RACING PROJECT
BANDOH

決勝 10月2日 GT500クラス 決勝結果 5位

素晴らしい秋晴れの中、開催される第7戦オートポリス。標高が高いオートポリスとは言え、決勝直後の気温は26度、そして路面温度は46度と10月とは思えないコンディションとなった。

午後には、航空自衛隊のF15戦闘機によるウェルカムフライトが行われ、レースに華を添えた。決勝スタート前に行われたウォームアップ走行では決勝に向けての最後のチェックを行った。

スタートドライバーは国本選手。航空自衛隊吹奏楽部隊による国家斉唱の後、大分県警の交通機動隊が先頭のパレードランが一周、そして一周のフォーメーションラップを経て、レースの火ぶたが切られた。

3番手からスタートの19号車は、1コーナーで前の100号車に肉薄するが、前との間隔を少し開け、3位を守るべく走行していく。オープニングラップは大きな混乱も無く進んでいく。19号車は3位のままコントロールラインまで戻ってきた。

序盤はトップ2台のペースが上がり、3位の19号車との差が少しずつ広がっていくが、後ろの17号車との差もつかず離れずで周回していく。

8周目あたりで300クラスに追いつき、300クラスをパスする難しい状況の中、後ろの17号車に責め立てられるものの、巧みに押さえていく国本選手。300クラスを全台パスした10周目も3位を死守して、少しずつ17号車との差を広げていく。16周目で19号車は3位。1位との差は約13秒、4位の17号車との差は約1秒。

17週の1コーナーで300クラスがコースアウト、グラベルに捕まったため、FCYが入る。18周目にFCYが解除された時にドライバーへの無線伝達が遅れ、解除直後に17号車にパスされ順位を一つ落としてしまった。

レースは1/3を越え、ミニマムでピットに入る車両が出てくる中、暫定2位の19号車が26周でピットイン。フルサービス、阪口選手へ交代して、暫定8位でコースに復帰する。

レース後半となり、順位争いは激しさを増し、19号車は31周目に後続の8号車に背後につかれ、暫定8位争いが勃発するが、32周目のメインストレートから1コーナーにかけての8号車のオーバー



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKANO
ExPress

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WELLVETS
— Animal Welfare Group —

KBC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
SUPREME SYSTEM

本田鉄工株式会社

QUARTZ
タイムラー・タンバコ

RACING PROJECT
BANDOH

テイクを押さえきり、前の 12 号車を追い掛ける。
34 周目に 12 号車の背後につくと、300 クラスを
オーバーテイクしながら必死に食らいついていく。
40 周目に暫定トップの 39 号車がピットに入り、
19 号車は暫定 7 位に、最後までピットには
入らなかった 37 号車が 42 周目に入り、全車が
ピットにはいり、19 号車は 6 位となる。

44 周目に入り、前の 12 号車との差が約 2 秒の 6 位となったが、12 号車との差を縮めていく。
52 周目に 300 クラスの車両がコースアウトし、2 度目の FCY が出て 54 周目に解除となった。19 号
車の順位は 6 位のまま。前との 12 号車との差は約 2 秒。

残り 10 周となり、阪口選手は 4 位争いをしている 14、12 号車に追いつくべく爆走していく。2 台の
背後に入った残り 3 周で 4 位争いしていた 12 号車が 14 号車とのバトルの際にコースアウトし、19
号車は順位を一つ上げることが出来た。そのまま、前の 14 号車に襲いかかるも、抜けない状況のまま
19 号車は 5 位でチェッカーを受けることとなりました。

レースは、トップの 24 号車がスタートから逃げに入り、
2 位以下を引き離しにかかるが、ピット戦略にて早め
に入っていた 17 号車が 28 周目にピットに入った
24 号車をパスして事実上トップに躍り出ると
2 位以下を引き離し、1 度も順位を譲らずチェッカー。
2 位は 20 周以上 24 号車の追撃を押さえきった
100 号車が、3 位は 24 号車となりました。

以下、14-19-12-3-36-37-39-8-16-64-23-38 となります。

難しいレースを制す事は出来ませんでした。

最終戦は優勝しか見てません。優勝のみを目指して爆走していきます。

皆様の応援、誠にありがとうございました。

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO H

<http://www.bandohracing.com/>





決勝コメント

【坂東監督】



『すべては PIT のタイミングでした。コース上ではリスタートの 17 号車以外は抜かされてません。12 号車は抜きました。自分が PIT IN を 26 周に決めた時点で勝負は決まってしまいました。すいません。またドライバーへの伝達ミスもあり、悔やまれる部分が多々ありましたがレースペースは TOP と変わらず走れたのは大きな収穫ですし、本来であれば菅生も同じペースで走れたと思います。なので前回の 1 ポイントのみの獲得もシリーズを考えると痛かったです。ハーフウェイトで 5 位は大きな収穫です。勝利へ近づいてるとチーム全員で思っています。最後の答え合わせのレース茂木は死ぬ気で勝ちに行きます。沢山の応援ありがとうございました。最終戦シリーズチャンピオンの可能性はないですが GR SUPRA TOP は狙います。』

【国本選手】



『スタートから 2 つ順位を落としてのゴールでしたが、安定した高いパフォーマンスで走ることが出来ました。』

週末通してチームと共にしっかりと戦うことが出来ましたし進化を感じた 1 戦でした。

最終戦の茂木は去年も 2 回表彰台に乗っている得意なサーキットなので、優勝を狙いにいきます。』

【阪口選手】



『自分が担当したセカンドスティントは 2 周目にタイヤをロックさせてしまいフラットスポットをつくってしまいました。かなりバイブレーションが多く厳しかったですが車とタイヤのパフォーマンスは高く安定することができました。タイヤ的にも厳しいサーキットでしたが最後までプッシュすることができました。レースペースは改善できているので戦略等の精度を高めて最終戦得意な茂木で勝って締めくくれるようチーム一丸となって戦いたいと思います。』